



## 宮城女学校の戦時期学籍簿の検討（2） —成績表と学科目の推移—

佐藤 亜紀

### はじめに

これまで資料室では、1937（昭和12）年から1941（昭和16）年に宮城女学校に入学した生徒の学籍簿を基礎資料として、「1943（昭和18）年度卒業生の学籍簿—宮城高等女学校の「学校挺身隊」—」（2021年度）、「宮城女学校の戦時期学籍簿の検討—出身小学校の地域と保護者の職業—」（2022年度）を『資料室年報』で発表してきた。

今年度は、学籍簿の「成績表」欄を取り上げ、戦時期における宮城女学校の成績表の形式の変遷に着目する。さらに、成績表の学科目<sup>1</sup>を各学年で比較し、学んだ科目の推移を時代背景とともに見ていきたい。表1は対象とした学年の、本稿での呼び名・入学年月・卒業年月・在籍生徒数を記したものである。

表1

	呼び名	入学年月	卒業年月	在籍生徒数 (名)
①	S12年次生	1937(昭和12)年4月	1942(昭和17)年3月	42
②	S13年次生	1938(昭和13)年4月	1943(昭和18)年3月	50
③	S14年次生	1939(昭和14)年4月	1944(昭和19)年3月	92
④	S15年次生	1940(昭和15)年4月	1945(昭和20)年3月	43
⑤	S16年次生	1941(昭和16)年4月	1945(昭和20)年3月	189

### 1. 成績表の形式の変遷

S12年次生からS16年次生の成績表を見ていくと、1) 成績の評価法、2) 選択科目、3) 成績表の形式、で変化があった。まず資料1で、成績表の書式と上記3項目の特色を入学年次別に示す。いずれも任意の一名分を抽出し表示した。「○」は100点満点の素点、「●」は「優・良・可・不可」の評価判定が記載されていたことを示す。【表記法一部変改】<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 学科目とは、学籍簿裏面の成績表右端に示された「聖書・修身」以下の科目名を言う（後掲、写真1. S12年次生参照）。しかし、1943（昭和18）年に「中等学校令」の「高等女学校規程」に準則したことにより、成績表左端には「国民科・理数科・家政科・体錬科・芸能科」の大区分（教科）が置かれ、さらに「修身・公民・国語（国文・漢文他）」という細かな区分（科目）が記されることとなった（後掲、写真1. S16年次生参照）。本稿では、基本的に中等学校令に準則するまでを「学科目」と呼び、中等学校令に準則した昭和18年度以降については「教科」「科目」を用いることとした。

<sup>2</sup> 表中の旧字体を新字体に改め、右書き（「書聖」）を左書き（「聖書」）とした。



資料1.成績表の書式

成績表						
第 学 年	第 五 学 年	第 四 学 年	第 三 学 年	第 二 学 年	第 一 学 年	学 年
						学 科 目
			○	○	○	聖書
	○	○	○	○	○	修身
			○	○	○	作法
	○	○				公民科
	○	○	○	○	○	国語講読
	○					漢文講読
	○	○	○	○	○	作文
			○		○	文法
	○	○	○	○	○	習字
		○	○	○	○	読方
	○	○	○	○	○	読解
	○	○	○		○	会話
	○	○				文法
	○	○	○	○		作文
					○	習字
	○	○	○	○	○	歴史
	○		○	○	○	地理
						地文
	○	○	○	○	○	数学科
	○	○	○	○	○	理科
	○	○	○	○	○	国書
	○	○				家事
	○					看、衛、育
	○	○	○	○	○	裁縫
						手芸
	○	○	○	○	○	音楽
						教育
	○	○	○	○	○	体操
	○	○	○	○	○	総点
	○	○	○	○	○	平均
	○				○	判定
	○	○	○	○	○	在籍生徒数
	○	○	○	○	○	席次
	○	○	○	○	○	可出日数
	○	○	○	○	○	授業日数
	○	○	○	○	○	授業時間
				○	○	礼拝欠席度数
	○	○	○	○		欠席日数
	○	○	○	○		欠席時間
						遅刻度数
						備考

## S12 年次生

### 1) 成績の評価法

- ・第一学年から第五学年まで素点表記。

### 2) 選択科目

- ・第四学年から英語科目が①読解・会話・文法・作文の4科目、または②読方・読解・文法の3科目+手芸の選択制となる。人数は①28名、②12名であった。

### 3) 成績表の形式

- ・本年次生及びS13年次生の形式を便宜、「従来形式」と呼ぶ。

成績表						
第 学 年	第 五 学 年	第 四 学 年	第 三 学 年	第 二 学 年	第 一 学 年	学 年
						学 科 目
				○	○	聖書
	○	○	○	○	○	修身
			○	○	○	作法
	○	○				公民科
	○	○	○	○	○	国語講読
						漢文講読
	○	○	○	○	○	作文
			○		○	文法
	○	○	○	○	○	習字
		○	○		○	読方
	○	○	○	○	○	読解
				○	○	会話
	○	○				文法
	○		○	○		作文
					○	習字
		○	○	○	○	歴史
	○		○	○	○	地理
						地文
	○	○	○	○	○	数学
	○	○	○	○	○	理科
		○	○	○	○	国書
	○	○				家事
	○					看、衛、育
	○	○	○	○	○	裁縫
						手芸
	○	○	○	○	○	音楽
	○					教育
	○	○	○	○	○	体操
	○	○				総点
	○	○	○	○	○	平均
						判定
	○	○		○	○	在籍生徒数
	○	○	○	○		席次
	○	○		○	○	可出日数
	○	○		○		授業日数
	○	○		○		授業時間
		○				礼拝欠席度数
	○		○		○	欠席日数
	○		○			欠席時間
						遅刻度数
						備考

## S13 年次生

### 1) 成績の評価法

・第一学年から第五学年まで素点表記。

### 2) 選択科目

・第五学年から英語科目が①読解・文法・作文の3科目、または②読解の1科目+手芸の選択制となる。人数は①23名、②26名であった。

### 3) 成績表の形式

・S12年次生に示したように「従来形式」と呼ぶ。

成績表						
第五学年	第四学年	第三学年	第二学年	第一学年	学年	学科目
				○		聖書
○		○	○	○	○	修身
			○	○	○	作法
○		○				公民科
	}	○	○	○	○	国語講読
		○				漢文講読
○	}	○	○	○	○	作文
			○		○	文法
○		○	○	○	○	習字
○	英				○	読方
		○	○	○	○	読解
○	教			○	○	会話
○	武	○				文法
			○	○		作文
					○	習字
		○	○	○	○	歴史
○		○	○	○	○	地理
						地文
○		○	○	○	○	数
○	物象	○	○	○	○	理科
○	生物	○	○	○	○	国書
○		○				家事
○	保健					看、衛、育
○		○	○	○	○	裁縫
						手芸
○		○	○	○	○	音楽
○						教育
○		○	○		○	体操
○		○	○	○	○	総点
○		○	○	○	○	平均
		○	○	○	○	判定
○			○	○	○	在籍生徒数
○			○	○	○	席次
			○	○	○	可出日数
			○	○	○	授業日数
			○	○	○	授業時間
			○	○	○	礼拝欠席度数
		○	○	○	○	欠席日数
○		○	○	○	○	欠席時間
						遅刻度数
						備考

## S14 年次生

### 1) 成績の評価法

- ・第一学年から第五学年まで素点表記。

### 2) 選択科目

- ・第五学年から①英語または②被服の選択制となる。人数は① 49 名、② 38 名、空欄 5 名であった。

### 3) 成績表の形式

- ・本来第五学年の成績を記入するはずの欄が空欄とされ、予備に置かれた欄に第五学年の成績が記入されている。
- ・空欄とされた欄には、これまで見られなかった科目名や複数あった科目を一つにまとめた記号と科目名が手書きで記されている。これらの科目名は、S15 年次生（第 4 学年～）、S16 年次生（第 3 学年～）に貼られた新たな科目表と概ね同じ内容であった。しかし、成績の表記は素点であった。

		成績表							
学年	項目	第五学年	第四学年	第三学年	第二学年	第一学年	学年	学科目	
		修身	●	●					
公民	国民科		●	○	○	○		修身	
国文			●	○	○	○		作法	
漢文			●					公民科	
作文			●	○	○	○		国語講読	
文法								漢文講読	
平均		●	●	○	○	○		作文	
歴史				●	○	○		文法	
地理		●		○	○		習字		
数学	理数科	●	●			○		読方	英語
物象		●	●	○	○	○		読解	
生物		●	●			○		会話	
家政	●						文法		
育児			○	○			作文		
保健	家政科	●	●			○		習字	
家事								歴史	
被服		●	●	○	○	○		地理	
手芸								地文	
体操	体錬科	●	●	○	○	○		数学	
武道		●	●	○	○	○		理科	
教練		●	●	○	○	○		国書	
音楽	芸能科	●	●	○				家事	
書道		●	●					看、衛、育	
国書			●	○	○	○		裁縫	
工作				○	○			手芸	
実業科		●		○	○	○		音楽	
英 <del>×</del> 被 <del>○</del>		●	●					教育	
修練		●	●	○	○	○		体操	
平均		●	●	○	○	○		総点	
判定		●	●	○	○	○		平均	
				○	○	○		判定	
			○	○	○	○		在籍生徒数	
			○	○	○	○		席次	
	○			○	○	○		可出日数	
	○			○	○	○		授業日数	
				○	○	○		授業時間	
					○			礼拝欠席度数	
	○	○			○	○		欠席日数	
	○	○			○	○		欠席時間	
								遅刻度数	
								備考	

## S15 年次生

### 1) 成績の評価法

- ・第一学年から第三学年まで素点、第四学年と第五学年は新たな科目表が左側に貼られ、優・良・可・不可で記載。

### 2) 選択科目

- ・第四学年と第五学年の新たな科目表（左端の科目名欄のこと）の中では、「英語又は被服」と初めから選択制がとられている。しかし成績表では英語と被服どちらを選択したかは判別できない。

### 3) 成績表の形式

- ・第四学年と第五学年は新たな科目表が左側に貼られる。

学年		成績表				
		第四学年	第三学年	第二学年	第一学年	学年 科目
修身	公民	●	●	○	○	修身
				○	○	作法
国文	国語		●			公民科
漢文				○	○	国語講読
作文			●			漢文講読
文法			●	○	○	作文
平均		●	●		○	文法
歴史		●	●	○	○	習字
地理		●	●		○	読方
数学	理数科	●	●	○	○	読解
物象		●	●			会話
生物		●	●			文法
家政	家政科	●		○		作文
育児					○	習字
保健		●		○	○	歴史
家事	家庭科	●	●	○	○	地理
被服		●	●			概
手芸		●	●	○	○	数学
体操	体錬科	●	●	○	○	理科
武道		●	●	○	○	国書
教練		●	●			家事
音楽	芸能科	●	●			看、衛、育
書道		●	●	○	○	裁縫
国書			●	○		手芸
工作				○	○	音楽
実業科				○	○	体操
英 <del>×</del> 被 <del>○</del>		●	●			
修練		●				
平均		●				総点
判定			●	○	○	平均
				○	○	判定
			○	○	○	在籍生徒数
			○	○	○	席次
			○	○		可出日数
			○			授業日数
			○			授業時間
						礼拝欠席度数
			○	○	○	欠席日数
			○	○	○	欠席時間
						遅刻度数
						備考

## S16年次生

### 1) 成績の評価法

- 第一学年と第二学年は素点、第三学年と第四学年は新たな科目表が左側に貼られ、優・良・可・不可で記載。

### 2) 選択科目

- 第三学年と第四学年の新たな科目表の中では、「英語又は被服」と初めから選択制がとられている。しかし成績表では英語と被服どらを選択したかは判別できない。

### 3) 成績表の形式

- これまで学科表の一番上に置かれていた「聖書」の科目自体が無い。「修身」から開始されている。
- 第三学年と第四学年は新たな科目表が左側に貼られる。

## 2. 学科目の推移

資料1を見ていくと、例えば、第一学年で学んだ科目がS12年次生とS16年次生では変わっていることに気が付く。ここではまず、各学年で学んだ科目を年次生ごとに記し科目の推移を見ていくこととする(資料2)。

資料2. 各学年で学んだ科目を年次生ごとに記した表

第一学年						第二学年						第三学年					
S16	S15	S14	S13	S12	年	S17	S16	S15	S14	S13	年	S18	S17	S16	S15	S14	年
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第一学年	S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第二学年	S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第三学年
科目なし					聖書	科目なし					聖書						聖書
○	○	○	○	○		修身	○	○	○	○		○	修身	○	○	○	
○	○	○	○	○	作法	○	○	○	○	○	作法	○	○	○	○	○	作法
					公民科						公民科						公民科
○	○	○	○	○	国語講読	○	○	○	○	○	国語講読	○	○	○	○	○	国語講読
					漢文講読						漢文講読						漢文講読
○	○	○	○	○	作文	○	○	○	○	○	作文	○	○	○	○	○	作文
○	○	○	○	○	文法						文法	○	○	○	○	○	文法
○	○	○	○	○	習字	○	○	○	○	○	習字	○	○	○	○	○	習字
○	○	○	○	○	読方					○	読方			○	○	読方	
○	○	○	○	○		読解	○	○	○	○		○	読解	○	○		○
	○	○	○	○	会話			○	○		会話				○	○	会話
					文法						文法						文法
					作文	○	○	○	○	○	作文	○	○	○	○	○	作文
○	○	○	○	○	習字						習字						習字
○	○	○	○	○	歴史	○	○	○	○	○	歴史	○	○	○	○	○	歴史
○	○	○	○	○	地理	○	○	○	○	○	地理	○	○	○	○	○	地理
					地文学						地文学						地文学
○	○	○	○	○	数学	○	○	○	○	○	数学	○	○	○	○	○	数学
○	○	○	○	○	理科	○	○	○	○	○	理科	○	○	○	○	○	理科
○	○	○	○	○	国書	○	○	○	○	○	国書	○	○	○	○	○	国書
					家事						家事	○					家事
					看、衛、育						看、衛、育						看、衛、育
○	○	○	○	○	裁縫	○	○	○	○	○	裁縫	○	○	○	○	○	裁縫
					手芸	○					手芸	○					手芸
○	○	○	○	○	音楽	○	○	○	○	○	音楽	○	○	○	○	○	音楽
					教育						教育						教育
○	○	○	○	○	体操	○	○		○	○	体操	○	○	○	○	○	体操

新たな科目表

・※ S12年次生が第一学年の時、昭和何年にあたるか年号の行を作成した。第二学年以降も同様とする。  
 ・学んだ教科目を○で記す。  
 ・S16年次生は四学年制となったため、第五学年は存在しない。



資料2から、科目の推移は、特に「聖書」と「英語」で見られることがわかる。そこで「聖書」と「英語」科目のみを抜き出した資料3と、それ以外の科目を示した資料4を作成してみた。

第四学年						
S19	S18	S17	S16	S15	年	
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第四学年	
					聖書	
					修身	
					作法	
					公民科	
					国語講読	
					漢文講読	
					作文	
					文法	
					習字	
					読方	英語
					読解	
					会話	
					文法	
					作文	
					習字	
					歴史	
					地理	
					地文学	
					数学	
					理科	
					国書	
					家事	
					看、衛、育	
					裁縫	
					手芸	
					音楽	
					教育	
					体操	

第五学年					
S19	S18	S17	S16	年	
S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第五学年	
				聖書	
				修身	
				作法	
				公民科	
				国語講読	
				漢文講読	
				作文	
				文法	
				習字	
				英又は被 読方	英語
				読解	
				会話	
				文法	
				作文	
				習字	
				歴史	
				地理	
				地文学	
				数学	
				理科	
				国書	
				家事	
				看、衛、育	
				裁縫	
				手芸	
				音楽	
				教育	
				体操	

資料3. 聖書と英語科目表

第一学年					
S16	S15	S14	S13	S12	年
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第一学年 / 学科目
科目なし		○	○	○	聖書
○	○	○	○	○	読方
○	○	○	○	○	読解
	○	○	○	○	会話
					文法
					作文
○	○	○	○	○	習字

第二学年					
S17	S16	S15	S14	S13	年
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第二学年 / 学科目
科目なし			○	○	聖書
				○	読方
○	○	○	○	○	読解
		○	○		会話
					文法
○	○	○	○	○	作文
					習字

第三学年					
S18	S17	S16	S15	S14	年
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第三学年 / 学科目
科目なし				○	聖書
英語又は被服の選択制 (新たな科目表)			○	○	読方
	○	○	○	○	読解
				○	会話
					文法
○	○	○	○	○	作文
					習字

資料4. それ以外の科目表

第一学年					
S16	S15	S14	S13	S12	年
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第一学年 / 学科目
○	○	○	○	○	修身
○	○	○	○	○	作法
					公民科
○	○	○	○	○	国語講読
					漢文講読
○	○	○	○	○	作文
○	○	○	○	○	文法
○	○	○	○	○	習字
○	○	○	○	○	歴史
○	○	○	○	○	地理
					地文
○	○	○	○	○	数学
○	○	○	○	○	理科
○	○	○	○	○	国書
					家事
					看、衛、育
○	○	○	○	○	裁縫
					手芸
○	○	○	○	○	音楽
					教育
○	○	○	○	○	体操

第二学年					
S17	S16	S15	S14	S13	年
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第二学年 / 学科目
○	○	○	○	○	修身
○	○	○	○	○	作法
					公民科
○	○	○	○	○	国語講読
					漢文講読
○	○	○	○	○	作文
					文法
○	○	○	○	○	習字
○	○	○	○	○	歴史
○	○	○	○	○	地理
					地文
○	○	○	○	○	数学
○	○	○	○	○	理科
○	○	○	○	○	国書
					家事
					看、衛、育
○	○	○	○	○	裁縫
○					手芸
○	○	○	○	○	音楽
					教育
○	○		○	○	体操

第三学年					
S18	S17	S16	S15	S14	年
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第三学年 / 学科目
	○	○	○	○	修身
	○	○	○	○	作法
					公民科
	○	○	○	○	国語講読
					漢文講読
	○	○	○	○	作文
	○	○	○	○	文法
	○	○	○	○	習字
	○	○	○	○	歴史
	○	○	○	○	地理
					地文
	○	○	○	○	数学
	○	○	○	○	理科
	○	○	○	○	国書
	○				家事
					看、衛、育
	○	○	○	○	裁縫
	○				手芸
	○	○	○	○	音楽
					教育
	○	○	○	○	体操

第四学年					
S19	S18	S17	S16	S15	年
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第四学年 / 科目
科目なし					聖書
英語又は被服の選択制 (新たな科目表)	英語又は被服の選択制 (新たな科目表)		○	○	読方
		○	○	○	読解
			○	○	会話
		○	○	○	文法
				○	作文
					習字

第五学年				
S19	S18	S17	S16	年
S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第五学年 / 科目
				聖書
英語又は被服の選択制 (新たな科目表)	英語又は被服の選択制 (新たな科目表)			読方
		○	○	読解
			○	会話
		○	○	文法
		○	○	作文
				習字

第四学年					
S19	S18	S17	S16	S15	年
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第四学年 / 科目
新たな科目表	新たな科目表		○	○	修身
					作法
		○	○	○	公民科
		○	○	○	国語講読
		○			漢文講読
		○	○	○	作文
					文法
		○	○	○	習字
		○	○	○	歴史
		○			地理
					地文
		○	○	○	数学
		○	○	○	理科
		○	○	○	国書
		○	○	○	家事
					看、衛、育
		○	○	○	裁縫
					手芸
		○	○	○	音楽
					教育
○	○	○	体操		

第五学年				
S19	S18	S17	S16	年
S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第五学年 / 科目
	○	○	○	修身
				作法
	○	○	○	公民科
		○	○	国語講読
			○	漢文講読
	○	○	○	作文
				文法
	○	○	○	習字
			○	歴史
	○	○	○	地理
				地文
	○	○	○	数学
	物象	○	○	理科
	生物		○	国書
	○	○	○	家事
	保健	○	○	看、衛、育
	○	○	○	裁縫
				手芸
	○	○	○	音楽
	○	○		教育
	○	○	○	体操

資料4から、「聖書」と「英語」以外の科目は、年度が進んでも各学年で学ぶ科目にそれほど大きな違いはなかった。そこで資料3の「聖書」と「英語」の科目の推移を時代背景とともに見ていくことにしよう。

### 「聖書」科目

「聖書」は、S12年次生が第三学年まで、S13年次生は第二学年まで、S14年次生では第一学年のみ学んでいる。すなわち、1939（昭和14）年までは宮城女学校の学科目として聖書の授業があったが、翌1940（昭和15）年から1944（昭和19）年まで聖書の授業が行われていないことになる。特に、S16年次生では、成績表から「聖書」の欄自体が消えてしまった（前章1. 成績表の形式の変遷 S16年次生参照）。この理由について、『資料室年報』第27号に詳しく記されているので抜粋して紹介する<sup>3</sup>。

1939（昭和14）年6月、宮城県に文部省の視察団が訪れその二日後、宮城女学校に来校した。彼らは、本校のキリスト教教育の方針について質問、忠告等を行った。翌1940（昭和15）年7月26日、県がミッションスクールの校長（宮城女学校、東北学院、尚綱女学校）を集め、今後の対応に関する「関係学校長会議」を開く。そこで、聖書教育については「聖書教授ハ必ず課外ニ於テナスコト」となり、他に礼拝や奉安殿についても提言され、「直チニ実行ニ移スコト」とされる。その結果、宮城女学校では1940（昭和15）年に学則改正申請が許可され、1941年4月から聖書を課外科目とし、41年の歴史を持つ聖書専攻科も3月に廃止となった。

成績表の「聖書」科目の推移は、まさにこの事実を如実に示すものと言える。

### 「英語」科目

先ず学んだ科目を学年ごとに見ていく（資料3を参照）。

#### ・第一学年

「読方」「読解」「会話」「習字」の4科目がS12年次生からS15年次生までであった。しかし、「会話」はS16年次生からなくなり、3科目となった。「習字」（おそらく書き取りの授業内容と推測）は、S12年次生からS16年次生まで、第一学年でのみ行われた。

#### ・第二学年

「読解」「作文」がS12年次生からS16年次生までであった。「読方」はS12年次生のみ

<sup>3</sup> 佐藤亜紀「1943（昭和18）年度卒業生の学籍簿—宮城高等女学校の「学校挺身隊」—」、『宮城学院資料室年報』第27号（2021年度）、学校法人宮城学院、74頁-77頁。

行われた。「会話」はS13・S14年次生にあり、それ以降はなかった。なお、S12年次生にも「会話」は行われなかったようである。

・第三学年

「読解」「作文」がS12年次生からS15年次生までであった。「読方」はS12・S13年次生、「会話」はS12年次生にあり、それ以降はなかった。S16年次生は、英語が被服との選択科目となる。

・第四学年

「読解」「文法」がS12年次生からS14年次生までであった。「読方」はS12・S13年次生、「会話」「作文」はS12年次生にあり、それ以降はなかった。S15・S16年次生は、英語が被服との選択科目となる。

・第五学年

S12年次生は、「読解」「会話」「文法」「作文」の4科目あり、S13年次生はそこから「会話」がなくなる。S14・S15年次生は、英語が被服との選択科目となる。

上記の結果から、英語を声に出して話す・読む授業である「会話」「読方」は早めになくなり、「読解」「文法」「作文」は、英語が被服と選択制になる前年まで行われていたことがわかった。時局柄、英語の授業科目として「会話」など英語を声に出す授業がなくなるとはやむを得ないことであったのだろう。さらに言えば、本校の「会話」「読方」等の授業は、アメリカ人宣教師のネイティブスピーカーによって行われていた。しかし、宣教師らは、1941（昭和16）年12月8日の日米開戦を機に身柄を拘束され、カトリック元寺小路教会に収容された。その生活は半年にも及び、その後、母国に送還させられた<sup>4</sup>。「会話」の授業が行われなくなるのもこの年である。これまでネイティブスピーカーにより行われていた、「英語を話す」という授業科目はこれらの理由でも行うことができなくなっていったのだろう。よって、日本人英語教師でも担当可能な「読解」「文法」「作文」など、話す以外の英語科目が続けられたと思われる。本校の英語教育では、被服との選択制

<sup>4</sup> ハンセン・リンゼイ両先生は、1941年10月18日（土）東条英機内閣が誕生したことをきっかけに離仙し、10月21日に横浜出帆の船で帰国した。この離仙の日付について『宮城学院七十年史』は、東条内閣成立当日の10月18日（土）午後としているが、本学教授（当時）犬飼公之氏が、佐久間むつ氏（宮城女学校専攻部英文科25回卒）の聴き取りをもとに著した「ひとこまの歴史ハンセン、リンゼイ両先生離日」（『宮城学院広報』第78号、1995年4.28）では、「1941年11月のある日」とし、なおその日を「日曜日」と記している。この記事を読んで佐久間氏から改めてお話を伺った本学教授（当時）大平聡氏も、両先生の離仙の日を「日曜日」と記している（『資料室年報』第8号、2001年度）。以上を総合して考えると、両先生の離仙は東条内閣成立の翌日、1941年10月19日（日）のことと判断される。

そしてこの年の12月8日（月）、日本軍が真珠湾を攻撃し、アメリカとの戦争が始まると、翌9日、他のアメリカ人教師は本校を退職し、10日には東北学院の外国人宣教師と共にカトリック元寺小路教会に収容された。収容期間は半年に及び、翌1942年6月、交換船で帰国した（『宮城学院七十年史』1956年、34-35頁）。

になる直前まで、英語の理解力や読解力を養う授業が維持されていたことがわかった。

次に入学した年度で見てみる。S12年次生は、第五学年までに英語6科目（読方・読解・会話・文法・作文・習字）をすべて学ぶことができ、どの学年でも4科目、英語を学んでいた（二学年のみ3科目）。S13年次生も同じく第五学年まで英語があるが、S12年次生と比べて科目数は減っている。S14年次生以降は、第一学年で3～4科目学ぶことができていたが、学年が上がるにつれ2科目、さらには英語と被服の選択制へと変わっていった。英語と被服の選択制になるのは、S14年次生が第五学年、S15年次生が第四学年、S16年次生が第三学年、いずれも1943（昭和18）年からであった。

その理由について、『宮城学院七十年史』（昭和31年、35頁）によると、1943年、前年にあった宮城県中等学校長会議で英語を随意科目とする決議を受け、本校は英語を選択科目とし、英語か被服のいずれかを選択させることとした。さらに、同年4月「中等学校令」の改定により、校名を「宮城女学校」から「宮城高等女学校」と改め、宮城県の高等女学校学則をほとんど逐条そのまま採用した新学則で、定員千名・四学年制・五学級編成へと改めたのである（『宮城学院八十年小誌』1966年、55頁）。前章1.成績表の形式の変遷で、S14年次生が第五学年時に加えられた手書きの科目表や、S15年次生が第四・五学年、S16年次生が第三・四学年時に見られた左側に新しく貼られた科目表とは、この昭和18年の「中等学校令」の改定によるもので、宮城県の公立の高等女学校と同じ科目表を採用したということであろう。このことは、これまでその設立目的に従い、キリスト教に基づく独自の教育を行ってきた宮城女学校が、その独自性を失うことを意味する。成績表の「聖書」や「英語」科目の推移から、戦時期の宮城女学校の苦しい状況が見えてくるように思う。しかしながら、これらのことは学校存続を図るためのやむを得ない措置であったのではないだろうか。

では、1943（昭和18）年の「中等学校令」の改定による新たな教科目とはどのようなものであったのだろうか。次章で見ていくこととする。

### 3. 「中等学校令」による新たな教科目

1943（昭和18）年1月21日、「中等学校令」が公布された。これは、中等学校の目的・制度などを規定した勅令で「皇国ノ道ニ則リテ高等普通教育又ハ実業教育ヲ施シ、国民ノ錬成ヲ為スヲ以テ目的」（第一条）とし、高等普通教育を中学校と高等女学校が、実業教育を実業学校がそれぞれ行うこととした。この中等学校令に基づき、1943年3月2日「中学校規程」・「高等女学校規程」・「実業学校規程」が制定され、それぞれの教育目標・教科目等が規定され、4月1日からの実施となった。これらの新たな制度では、修業年限が従来の5年から4年に短縮され、教科においては修練が課せられた<sup>5</sup>。

<sup>5</sup> 『学制百五十年史』文部科学省、2022年、72頁。

「高等女学校規程」第一章「総則」第二条は、教科について次のように規定している。

第二条 高等女学校ニ於テハ教科及修練ヲ課スベシ。教科ハ之ヲ分チテ基本教科及増課教科トス。基本教科ハ国民科、理数科、家政科、体錬科及芸能科トシ増課教科ハ家政科、実業科及外国語科トス。増課教科ハ其ノ内一又ハニヲ課セザルコトヲ得。外国語科ヲ増加スル場合ハ之ヲ其ノ他ノ増課教科ト選択履修セシムベシ。(以下、略)<sup>6</sup>

さらに第三条から第九条にかけてそれぞれの教科の要旨と具体的な科目名があげられている。『学制百年史 記述編』に上記部分を簡潔にまとめた箇所があるので引用する。

高等女学校は、教科を基本教科と増加教科に分け、基本教科は国民科（修身・国語・歴史・地理）、理数科（数学・物象・生物）、家政科（家政・育児・保健・被服）、体錬科（教練・体操・武道）および芸能科（音楽・書道・図画・工作）とし、増課教科は家政科、実業科（農業・商業）、外国語科（英語・独語・仏語・支那語・マライ語・その他）とした。そして増課教科はその内の一または二を課さないことができるとした。外国語科を増課する場合はその他の増課教科と選択履修させた<sup>7</sup>。

「高等女学校規程」（第二条～第九条）にある教科目と昭和18年に本校の成績表に貼られた科目表（図1）を比べると、本校の科目はほぼこの規定に則っていることがわかる。さらに本校では外国語科（英語）を増課教科としたため、家政科（被服）との選択科目としたことがわかった。

修身	国語	国民科
公民		
国文		
漢文		
作文		
文法	平均	歴史
平均		
地理	家政科	理数科
数学		
物象		
生物		
家政	家政科	体錬科
育児		
保健		
家事		
被服		
手芸	芸能科	芸能科
体操		
武道		
教練	実業科	実業科
音楽		
書道		
国書		
工作	英被修	英被修
実業科		
英被修		
修練		

図1. 昭和18年から宮城高等女学校の成績表の左側に貼られた教科目表

<sup>6</sup> 『学制百年史 資料編』文部省、1972年、144頁-145頁。適宜、句読点を補った。

<sup>7</sup> 『学制百年史 記述編』文部省、1972年、589頁。

#### 4. おわりに

今年度は、1937（昭和12）年から1941（昭和16）年の学籍簿の「成績表」に着目し、その形式の変遷と、1937（昭和12）年から1944（昭和19）年に本校で学ばれていた科目を知ることができた。これにより、1943（昭和18）年に公布された「中等学校令」を調べるに至り、当時の教育目的が「皇国ノ道ニ則リテ国民ノ錬成ヲ為ス」とされ、本校の「成績表」に見る形式と科目の変化は、国家的要請に即応すべく推し進められていった教育体制を反映した一つだと言えよう。その後はさらなる時局の悪化により、宮城高等女学校の教室の一部が学校工場化され（専攻科生徒）、さらに学徒勤労動員により、最上級生たちは横須賀海軍航空技術廠、多賀城海軍工廠へと動員された。

2021年から本校の戦時期における学籍簿の調査を始め、資料室年報で発表してきた。「学籍簿」という資料から戦争が本校の教育にどのように入り込んできたのか、その一端に触れることができたのではないかと思う。今後は、戦後の「学籍簿」を探し、戦時期との違いを明らかにしていきたい。

謝辞：本稿を成すにあたり、成績表の掲載方法について本学名誉教授菊池勇夫氏（一関市博物館館長）、本学名誉教授大平聡氏にご教示をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

（さとう あき / 宮城学院資料室職員）